



第 61 号

千 町 田

10年後ののきの郷

専務理事 河津 一行

のきの郷設立より早いもので10周年を迎えました。これまで先を見据えて雇用制を取り入れ組織を改革してまいりました。そのため多くの営農法人が抱えている担い手不足問題は、当法人では今のところ問題はありません。また県全体からも評価をいただいている法人に成長してきていると感じています。

しかしこれは、言い換えれば10年前にそんな時代が来ることを予想してきた結果であり、さらに10年後のこれから予想して次のステップを考えていかなければなりません。

世界の農業事情に目を向けてみると、穀物の生産は供給量が需要量を下回り深刻な食糧危機状況が来ていると言われているま



す。一方日本では、米の生産量が需要量を上回り国も米の生産からの脱却を進めようとしています。

そんなことを考えると、現在ほとんどを輸入に頼っている食用小麦や飼料用トウモロコシを主流に生産する時代が来るのかも知れません。いずれにせよウクライナ情勢や米中関係のような国際情勢にも大きく影響されるような気がしています。

また、農業技術や農業機械の進歩により農業のスマート化はさらに進んでいくと思われる。無人のトラクターが圃場を走り回る時代はすぐそこまで来ている。

替否両論あるかと思いますが、のきの郷は今後の状況を注視して生き残りをかけて事業を展開していかなければなりません。そのため



めには、やはり将来を担う「人づくり」が不可欠だと思えます。広い視野を持ち真剣に前進していく人づくりが、将来の地域づくりにつながると確信しています。それもこれも組合員のご理解ご協力あつてののきの郷です。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。



能義小学校 いちご狩り

5月18日

日に能義小学校の全校児童がいちご狩りにやってきました。今年も観光農園でのいちご狩りは開園できていないのですが、地元の小生たちだけに毎年ハウスを開放していちごを楽しんでもらっています。



3・4・5年生の班と1・2・6年生の班に分けてやってきました。高学年は黙々と低学年はにぎやかにたくさんイチゴを食べました。

この日はどじょうこテレビの取材も入りましたのでテレビでご覧になった方もおられると思います。後日子供達からお礼のお手紙をいただきます。





黄金色になりました。この時季を麦秋と言います。麦の実りの季節です。



1枚の田んぼで直播の試験栽培を行っています。まだ芽を出したばかりですが様子を見守ります。小麦は田んぼ一面が

むすめ、にこまる、飼料用米と続き今月上旬には終了します。第1弾で田植えを行ったつや姫の田んぼでは苗



田んぼの様子

4月26日
日から始まった田植えは最終段階に入っています。つや姫から始



まりWCS用稲、に

じのきらめき、きぬ

をたくさんつけています。実りの秋に向けて細かい作業が続きます。

菜種はさやを膨らませています。どちらも今月中旬には刈取ります。いちごはほぼ収穫が終わり片付けに入ります。



うは小

さな肩



スを締切りその熱で培土の消毒を行います。



水稲の育苗が終わったハウスでは、とまこの栽培準備が始まりました。まずはト口箱培土の太陽熱消毒です。ハウ



お知らせ

◎きこいな祭りの開催

今年は4年ぶりに『きこいな祭り』を7月15日(土)に開催することになりました。

詳細は後日ご案内させていただきますので皆様お誘いあわせの上お出かけください。

◎保有米・縁故米

現在ご注文いただいている令和5年産保有米縁故米は8月下旬まで数量変更可能です。

◎なたね油

そろそろお中元の時季を迎えますが、お品はもうお決まりですか。

今年のお中元はのきの郷のなたね油はいかがでしょうか。単品はもちろん箱入りも準備しております。包装、のし掛けを承りますのでお気軽にお声掛けください。



◎代満て

田植えが無事終わったというお祝いの行事です。代(しろ)とは古代(6世紀ごろ)の田畑の面積を測る単位で稲1束(そく)を収穫できる面積のことです。律令制では50代を1段(たん)50代では1町歩としていました。その名残で田んぼのことを代(しろ)と言います。田んぼが満ちるまたは作業が終わるという意味で代満て(しろみて)というようです。(モジナヒ調べ)

能義郷土誌によると代満てのお祝いに「稲苗2把を家の恵比須様に供え正月の縫い初めに半紙で作った袋に入れておいた米で小豆飯を炊き正月飾りの昆布とスルメで煮しめを作りお神酒とともに神々に供えた。」とあります。

◎ちよっこし聞いて

代満てのことを調べていて、正月に半紙を縫った袋に米を入れていたことを思い出しました。また供えた稲苗が乾くとばんばさんという人形を作ってもらいました。懐かしい思い出です(や)

